

## 令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第五中学校      校長名：大野 博史

<p><b>【経営理念】</b></p> <p>生命尊重や思いやりの心を大切にし、仲間とともに学び、成長することができる学校</p> <p>(1) 生徒一人一人が学力と体力の向上に主体的に取り組み、豊かな個性と能力の伸長を図る。</p> <p>(2) 仲間とのよりよい人間関係や集団生活を大切にし、豊かな心と社会性を育む。</p> <p>(3) 地域を知り、地域に貢献する活動を通して地域や社会の一員として生きていく自覚を高める。</p>
---

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p><b>【学校運営協議会・会長】</b>堀内 一弘</p> <p>学校運営協議会（学校評価分）</p> <p>第1回    令和7年 7月 3日（木）</p> <p>第2回    令和7年 11月 6日（木）</p> <p>第3回    令和8年 2月 12日（木）</p>	
---	--

項目	計画・取組			自己評価（令和8年2月12日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	<p>全生徒に対しての基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図る</p>	<p>「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。</p>	<p>生徒アンケートにおいて、家庭学習に日常的に取り組んでいる生徒が60%以上</p>	70.3	B	<p>家庭学習をしている生徒は42.2%だった。学習計画表は定期考査に合わせて配布し、また日常的に家庭学習に関する課題を出し家庭学習を促している。</p>	<p>家庭学習を促す方策をとっているもののまだ十分な成果が出ていない。生徒にとって学習する目的や意義についての指導を継続する。</p>	<p>家庭環境にもよりますが、家庭学習時間が取れる生活をしてほしい</p>	B
		<p>地域未来塾事業や都立武蔵村山高校の生徒の学習サポーターを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に補充教室を実施する。</p>	<p>【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。</p>	100	A	<p>国語は50.5%→60.2%、数学は52.8%→44.0%で、合計は前年度を上回った。今年度の数学は問題が難化したため、全国平均、本校ともに数字が下がっている。全国平均との差を見ると昨年度より4%改善している。</p>	<p>地域未来塾や考査前、長期休業中の補充教室は計画通り実施し、多くの生徒が参加した。引き続き、地域未来塾や学習サポーターを活用し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>基礎学力がどの教科においても大切。高校生のサポートは良い。</p>	B
豊かな心の育成	<p>生命尊重や思いやりの心を育成し、仲間を大切にすることができる生徒を育てる</p>	<p>特色ある教育活動推進校として、生命尊重や思いやりの心の育成をテーマに講演会や授業を行う。</p>	<p>生徒、保護者アンケートにおいて生命尊重や思いやりの心が感じられたと答えた割合が80%以上</p>	100	A	<p>肯定的な答えが86%であった。地域から「五中生が困っているお年寄りを助けた」「五中生が迷子の子どもを助けた」とお褒めの言葉をいただくことがあった。</p>	<p>今後も生命尊重と思いやりの心をもった生徒の育成のため、特別の教科 道徳や日々の学校生活の中で重点的に指導していく。</p>	<p>地域の方にも目を向けられることは素晴らしい。</p>	A
		<p>年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行う中で生徒が主体的にいじめ防止の取り組みを行うように推進する。</p>	<p>教員の自己評価や、生徒、保護者のアンケートの中でいじめ防止に取り組み、いじめがあったときは早期に対応しているという答えが75%以上</p>	81	A	<p>生徒79.6%、保護者65.9%、教員100%がいじめに対して早期に対応していると回答した。保護者の回答率が若干低いため、信頼をより得ることができるよう迅速な対応に努める。</p>	<p>今後も継続して、いじめ対策委員会を毎週開き、早期発見早期対応に努める。セーフティ教室ではいじめ防止授業をおこなった。</p>	<p>大人の分からないネットいじめに対して常にアンテナを張っていただきたい。</p>	A
健やかな体の育成	<p>基本的な生活習慣を見直し、高齢者、障がい者理解を深め、身心ともに健やかな生徒を育てる。</p>	<p>パラリンピアンなどを講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、高齢者疑似体験や交流を通して、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。</p>	<p>体験活動や交流活動を年間1回以上行う。</p>	100	A	<p>10月に高齢者疑似体験(1年)、11月に車いすラグビー体験(2年)を行った。3月にUnicefを招いて国際理解教育を行う予定であり、体験や交流活動を行っている。</p>	<p>今後も体験活動や交流活動を計画的に行い、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。</p>	<p>様々な体験活動を通していろいろなことを学んでいて良いと思う。</p>	A
		<p>基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高めるために、歯科講話や歯磨きキャンペーン、給食の残食ゼロウィークに積極的に参加させる。運動会への取り組みを通して、自分自身の生活と、身の周りの運動との関わりを考えさせる。</p>	<p>【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。</p>	100	A	<p>今年度の結果、総合評価「C」以上の割合は63.5%だった。令和6年度は64.2%だったので、若干下がっているものの、基準は超えている。</p>	<p>今後も歯みがきや残食ゼロなどの各種キャンペーン等を活用し、基本的な生活習慣を確立させ、健康な体づくりを推進する。</p>	<p>フードロスや食べ物の好き嫌いは食生活が豊かであることの証ではあるが日本全体の課題である。</p>	B
まちづくり学習の充実	<p>地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域とともに生きていくことを自覚し、自ら進んで地域に貢献できる生徒を育てる。</p>	<p>地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域社会に貢献する生徒を育成するため、地域と連携した、五中フェスティバルや職場体験、プロから学ぶ会を開催する。</p>	<p>生徒、保護者、地域へのアンケートの中で、地域のことを意識して活動できているという肯定的な回答が75%以上</p>	87	A	<p>生徒は56%、保護者、地域は65.9%が肯定的な回答だった。五中フェスティバル、職場体験、プロから学ぶ会に加え、MMフェスティバルを開催し、地域と協力しながら教育活動を行うことができた。</p>	<p>地域と協力した活動は本校の強みであるため、今後も継続して行う。それにより、生徒の成長につなげるとともに「地域と歩む学校」を実現する。</p>	<p>MMフェスティバルはとてもよかった。地域の協力者への感謝についてさらに深めてもらいたい。今後も地域を大切にしたい。</p>	A
		<p>KKM(高齢者が暮らしやすい武蔵村山市)、MMM(魅力ある武蔵村山市)の2つのプロジェクトを通じて、市の現状と課題について学習し、発表活動等を通じてより良い武蔵村山を創るためのアイデアを提案する。</p>	<p>【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上</p>	100	A	<p>KKMとMMMの2つのプロジェクトを進め、11月に中間報告を行い、市役所の方を招いて、まちづくりについて提案した。昨年度の成果としてラッピングトレイン、お祭りが実現した。また、2月に研究発表を行った。</p>	<p>主にKKMとMMMを通じて、中学生の視点から武蔵村山市の現状を見つめ、より良い武蔵村山市を作るためのアイデアを提案する活動を続ける。</p>	<p>いつか大人になったときに地域の協力者になってもらいたい。中学生の時から市のことを考える機会がありよい。</p>	A
学校裁量	<p>自他の生命を尊重し、他の思いやる心を育てるとともに、自ら考え、共に学び、積極的に社会に貢献する態度を養う。</p>	<p>特別の教科 道徳の授業を通じて、全学年重点項目である「B(6)思いやり、感謝」と「D(19)生命の尊さ」に係る授業を学期に1回以上行い、自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。</p>	<p>生徒の道徳振り返りワークシートにおいて、授業の内容を深く考えることができたと答える生徒が75%以上</p>	100	A	<p>1年84.0%、2年93.0%、3年92.0%が肯定的な意見だった。特別の教科 道徳において重点項目に関する授業を行っている。それにより、思いやりの心を育む取組を行うことができている。</p>	<p>今後も主に特別の教科 道徳の授業を中心に、自他の生命を尊重し、他を思いやる心の育成を図る。</p>	<p>団体生活を苦手とする生徒が増えてきているので、今後も道徳教育に関する取組が必要。</p>	A

※ 到達度 = 達成値 / 目標値